

本文

※例文は学習用です。

- ① 学ビテ而時ニ習フ之ヲ。／学びて時にこれを習ふ。
- ② 千里ノ馬ハ常ニ有レドモ而伯楽ハ不ズ常ニハ有ラ。／千里の馬は常に有れども、伯楽は常には有らず。
- ③ 青ハ取りテ之ヲ於藍ヨリ。／青はこれを藍より取る。
- ④ 苛政ハ猛ナリ於虎ヨリモ。／苛政は虎よりも猛なり。
- ⑤ 己ノ所ヲ不ル欲セ、勿カレ施スコト於人ニ。／己の欲せざる所を、人に施すこと勿かれ。
- ⑥ 敏ニシテ而好ム学ヲ。／敏にして学を好む。
- ⑦ 学ビテ而不レバ思ハ則チ罔シ。／学びて思はざれば則ち罔し。
- ⑧ 朝ニ聞カバ道ヲ、夕ニ死スルモ可ナリ矣。／朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり。
- ⑨ 仁ハ遠カラシム乎哉。／仁は遠からんや。
- ⑩ 三人ノ行ケバ、必ズ有リ我ガ師焉。／三人行けば、必ず我が師有り。
- ⑪ 過チテ而不ル改メ、是ヲ謂フ過チト矣。／過ちて改めざる、是を過ちと謂ふ。
- ⑫ 君子ハ和シテ而不ズ同ゼ。／君子は和して同ぜず。

設問

1. ①の「而」の働きを答えよ。
 - 順接・逆接のどちらか。
 - 送り仮名がどう変わって読まれているか。
2. ①「学びて時にこれを習ふ」を現代語訳せよ。
3. ②の「而」の働き（順接・逆接のどちらか）を答えよ。
4. ③の「於」は、どのような関係（場所・対象・比較など）をあらわしているか答えよ。
5. ④の「於」は、どのような関係をあらわしているか答えよ。また、そのことが書き下し文のどの語にあらわれているか答えよ。
6. ④「苛政は虎よりも猛なり」を現代語訳せよ。
7. (記述) ④の「苛政猛於虎」と、もし「於」がなく「苛政猛虎」と書かれていた場合とでは、読み方・意味にどのような違いが生じるか。「於」の働きにふれて説明せよ。
8. ⑤の「於」は、どのような関係をあらわしているか答えよ。
9. ⑤「己所不欲、勿施於人。」を書き下し文に直せ（置き字は書かないこと）。
10. ⑤「己の欲せざる所を、人に施すこと勿かれ」を現代語訳せよ。
11. ⑫の「而」の働き（順接・逆接のどちらか）を答えよ。

12. ⑫「君子和而不同。」を書き下し文に直せ（置き字は書かないこと）。
13. ⑫「君子は和して同ぜず」を現代語訳せよ。
14. ①～⑫の各例文から、置き字をすべて抜き出せ。
15. ⑧・⑪の「矣」は、訓読のうえでどのような働きをもつ置き字か答えよ。
16. ⑩の「焉」、⑨の「乎」は置き字である。これらは書き下し文では書くか書かないか答えよ。
17. 次の例文を書き下し文に直せ（置き字は書かないこと）。①「学びて時にこれを習ふ」のように、すべてかなと漢字で書け。
- ③ 青取之於藍。
 - ④ 苛政猛於虎。
18. 「而」は、書き下し文に書かない置き字であるが、その働きは何の形で訓読にあらわれるか。次から最も適切なものを一つ選べ。
- ア 文末の「なり」
 - イ 「て」「ども」などの送り仮名
 - ウ 返り点
19. 「於・于・乎」が場所や比較をあらわすとき、その意味は書き下し文のどのような語にあらわれるか。具体例を一つあげて説明せよ。
20. (記述) 置き字とは何か。「読む・読まない」「書き下し文」という言葉を使って、一文で説明せよ。